

ヤマト福祉財団NEWS

Yamato Welfare Foundation 2011 Winter

1月20日発行 No29

第11回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞

若者の働く夢 実現に尽力



写真前列左より受賞された佐治リエ子さん、北山守典さん、北山氏令夫人
後列左より石田哲也ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、有富慶二ヤマト福祉財団理事長、神田晴夫ヤマトホールディングス㈱代表取締役常務執行役員、木川 眞ヤマト運輸㈱代表取締役社長

私たちの賛助会費が活かされています

■障がい者福祉助成金 助成先レポートVol.9(多摩市)

地域の個性を武器に、戦略的な事業展開で
工賃アップを目指す

障がい者本人による
クロネコメール便配達
特別報告会

「ありがとうございます、
うれしかったです。」

スワン工舎 卒業生訪問6

この街で一緒に生きていく
障がい者のクロネコメール便
配達

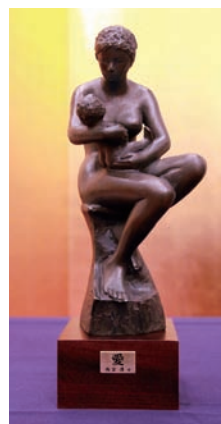
YWF TOPICS

「会社に来るのが楽しい」

自信が仕事への責任感に変わってきました。

「配達の初日に飲んだ、

ジュースのおいしさが、忘れられない。」



平成22年12月7日／東京・日本工業倶楽部

第11回ヤマト福祉財団 小倉昌男賞 若者の働く夢 実現に尽力



笑顔がこぼれる佐治リエ子さん



「彼女は大らかでエネルギッシュ」と、佐治さんを本賞に推薦したNPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事・横路由美子さん

障がい者に働く喜びと生きがいをもたらしている方々を表彰、応援する「小倉昌男賞」。本賞に今年選ばれたのは、社会福祉法人「さつぽろひかり福祉会」統括管理者の佐治リエ子さんと、和歌山県みなべ町でNPO法人「ワークネット」理事・事務局をされている北山守典さんです。

佐治さんは、「精神障がい者に対する根強い偏見社会に風穴を開け、ひかり工房で働く33名の平均月賃月6万円を実現されたこと」が選考委員に高く評価されました。

ご子息の精神疾患を機に自ら小さな作業所を立ち上げ、それを現在では年間売上5000万円というベーカーリーに育て上げ、工賃が10万円を超える利用者もいます。工賃実績は精神を主たる対象障がいとしている事業所の中では、北海道随一の実績をおさめています。

北山守典さんは、早くからグループ就労の実践を通じ、精神



「道は平坦ではありませんでした」と佐治さんに贈る賞状の中で、その労をねぎらう有富理事長



北山さんのNPOでつくる梅干がおいしいのは「北山さんやそこで働いている精神障がい者のプライドが詰まっているから」と評す、推薦者の広島国際大学医療福祉学部の關宏之教授

もう一人の推薦人、NPO法人「大阪精神障害者就労支援ネットワーク」理事長・田川精二さんは、「適切な支援があれば、誰でも働けることを証明した開拓者」と、北山さんの受賞を喜びました



選考委員の一人として、選考事由について報告する財団法人「厚生年金事業振興団」理事長・渡辺修氏



ブロンズ像を受け取る北山守典さん

ご祝辞をいただいた、厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部長・木倉敬之氏



賞状ならびに正賞の雨宮淳氏作・母子のブロンズ像「愛」と副賞の賞金が有富理事長よりお

す。
障がいの弱点と言われた職場定着に多大な成果を上げられました。平成8年に「やおい福祉会」に参加して、当時としてはめずらしい精神障がいを主な対象にした就労支援センターを立ち上げました。
まずは集団生活のマナーから学び、就労を果たしたメンバー同士が互いにサポートしあう手法は、12年間で400名もの就労を実現し、「グループ就労」のお手本になりました。現在は、やおい福祉会を退職し新たな雇用の場の創出に精を出しています。

二人へ拍手とともに贈呈されました。

毎年恒例になった受賞者のお二人を詠んだお祝いの句が、俳人の花田春兆さんより贈られました。俳句の贈呈のあとには花田春兆さんのご祝辞で、江戸時代の長屋の暮らしと心のゆとりについてお話しをいただきました(P4)。

つづいて厚生労働省の木倉敬之氏より、ご来賓を代表してお祝いのご挨拶をいただいたあと、受賞者お二人のごあいさつで贈呈式を締めくくりました。



祝賀会



有富理事長と一緒に、佐治さんと関係者のみなさん



青木大祐・安田倉庫株式会社相談役（ヤマト福祉財団評議員）による乾杯



中締めのごあいさつをいただいた、石田哲也・ヤマトグループ企業労働組合連合会会長



ご祝辞をいただいた神田晴夫・ヤマトホールディングス株式会社 代表取締役常務執行役員



北山さんご関係者のみなさん

花田春兆さんより お祝いに 寄せて

江戸時代の社会のこととすこし、お話しさせていただきます。

落語によく出てくる与太郎、きつと今言う知的障がい者でしょうが、時には馬鹿にされたり、からかわれながらも、疎外されことなく周囲の人々に暖かく包まれながらも、江戸の社会では立派に共生していました。

もちろん、社会の構成状況も違えば、今の人権や福祉の感覚からも論外なのでしょうが、ともかく、個人個人を孤立させ放しにしてはおかないシステムが働いていました。言い換えれば、今求められているグループホームの原型が、江戸の長屋にはあったのです。

うるさく邪魔になる存在に思われることもあったでしょうが、人と人をも結びつけ、介護者から、時にはケースワーカー的な役まで買って出られるようなお節介な人が、日常的に身近にいる、そんな生活でした。個々の秘密が保てないことも含めて、長屋全体が大きな家族的な存在だったのではないかと、と捉える見方もできると思います。

しかし戦後の核家族化から、最近の老いも若きも問わない一人暮らしの増加が、日本人の孤独化を進めてしましました。さらにそうした外的条件に加えて、過剰とも言える個人主義・プライバシーの強調が、内側から拍車をかけている、そんな気がするんです。

徹底して強硬な当事者たちと、超過敏に反応するマスコミの果てしない相乗作用。それが逆に自縄自縛に働いて、いわゆる共生の妨げとなり、遠ざかってしまう共生社会への思いを募らせる…、そんな悪循環に陥ってしまっていると思われてなりません。

そこへ戻るのには叶わぬこととしても、落語の世界のおのほらかさを顧みるくらいは、心のゆとりの持てる社会になれないものか、などと思われてきて仕方がないのです。



受賞のことば

働ける環境を提供しない側のほうが愚かなのだと、私たちは考えています

私には障がいを持っている息子が二人おります。私が死んだあと二人はどうなってしまうんだろう…。子どもを自立させなくちゃならない、その一心で授産施設を興しました。

その後、当時の場所がどうにも手狭になって、札幌市に「土地を貸してください」とお願いに行きました。しかし、市の許可が下りたところで、ちょうど池田小学校事件があり、寝耳に水でびっくりされた地域の方から反対ののろしが上がりました。

ですが、町内会長さんは「精神障がいについてよく知らずに賛成、反対を言うのはおかしい。まずは勉強しよう」と、作業所に役員の皆さんと見学にいらつたり、率先して住民の方の啓発に当たってくださいました。今では町中がサポーター。地域の方々が物心両面でほんとうに支援してくださっています。

事業所を運営するにあたって、重点を置いていることが二つあります。一つは収入の保証。もう一つは障がいのマイナ

スイメージ、偏見から、利用者さん自身

が脱皮することです。
お金を持たないと誰でも卑屈になってしまします。月給3万円ぐらいだと、まだ「自分たちはどうせ…」と肩をすぼめた雰囲気です。これが4万、5万となりますと「もっとほしい!」。10万近くになつてくると「あれっ、結婚できるんじゃないか!」とさらに前向きに頑張るようになります。お金を持つということは希望を与えることだと思います。

「精神障がいには働けない」そう言う医師もいます。「無理をさせないで」ご家族もほどほどを望みます。でもそんな心配は杞憂です。ちゃんと働いてお金を持てば、みんなどんどん元気になる。それが私の見つけた答えです。

これからも私たちは、誰もが能力を充分に発揮できる職場を、そして、一人前に税金を納めて、年相応に結婚もできるような環境を目標に頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

受賞のことば

働くことは治療の一助。やる気がある人はどんどん働けばいい

本日はありがとうございます。僕は十数年、精神障がい者の就労支援をテーマにやっていますが、まさかこんな舞台に立つことになるとは思っていませんでした。

「働く意欲のある人についてはちゃんと鍛えてあげて、外に出してあげたい」と感じていましたが、当時、参考になる施設はどこにもなく、全部自分で考えるより他にありませんでした。

一番の苦労は、精神障がい者もきちんと働けると理解してもらうこと。そこに心血を注いできました。これは今でも変わりません。実際に雇っていくことが何よりの近道です。みなべは小さな町で大企業はありませんので、大きな農家や零細企業に出向いて行つて、まずは「社長すまんけど、この人を2、3日面倒見てほしい」とお願いします。その間にジョブコーチや支援者さんのフォローを組んでいって、どんどん職場に入れ込んでいくわけです。(笑)

その代わり、最初に職場に送り出すメ

ンバーの人選には相当、気を遣います。順調に行ったら、「社長、この人を活かそうと思ったら、もう一人雇ってほしい」と説明します。一人ではどうしても不安があります。でも、ペアとかグループであつたら思わぬ力を発揮しますよ、と。仲間がいる安心感というのは、我々が思う以上に彼らにとっては強いものを持つていますし、企業の側も実際やりやすくなつて、一石二鳥なのです。

やりたいことはまだまだあります。そのためにワークネットと南高梅の会、そして今年もう一つNPO法人を立ち上げました。

サービスマンに農産物、海産物とそれぞれ扱う事業に個性を持たせ、三つ各々の特性を活かした企業集団に育て上げ、就労の場を増やしたいと考えています。働くことが治療の一助になると僕は思っているんで、就労支援をテーマに生涯現役で、とことんみんなといっしょに進んでいけたらと考えています。



佐治リエ子さん
社会福祉法人さっぽろひかり福祉会
統括管理者

岩手県気仙郡住田町生まれ。札幌女子教員養成所卒業。1957年より18年間、北海道内の公立小・中・高・養護学校に勤務。その後、ご長男ご次男が統合失調症を発症。90年に設立準備会立ち上げ。91年に夫と死別。92年、精神障害者小規模作業所光共同作業所を設立し、所長に。2003年に社会福祉法人さっぽろひかり福祉会ひかりパン工房施設長。08年より統括管理者に就任し、現在に至る。



北山守典さん
NPO法人ワークネット
理事・事務局長

1940年、ハルビン生まれ。44年に和歌山県南郡町に転居。翌年、列車事故で左膝下を失う。64年に東京パラリンピックに出場。25m自由形で金メダル。88年、和歌山県子供会連絡協議会副会長。96年に社会福祉法人やおき福祉会に入職。99年に自主事業として精神障害者地域就労支援センターを開設し所長に。2000年、厚生省・労働省 障害者就業・生活総合支援検討委員会委員。その後、就労支援事業の確立に地域の枠を飛び越えて奔走。09年にNPO法人ワークネット、NPO法人南高梅の会 みなべ工場を相次いで開設し、現在に至る。

年用意 珠玉の

梅干し 日々包む

花田春兆



高田果園代表 高田智史さんは、生産農家の将来も見据えて北山さんに協力し、支えてきました。(高田家縁側で)



北山さんは、紀南障害者就業・生活支援センターの仕事を清水聖さんに託しています。(紀南障害者就業・生活支援センター 玄関前で)



NPO法人・南高梅の会 就労継続支援A型 みなべ工場のみなさんと北山さん

鍋物シーズンを前に椎茸の収量も増えています。(就労継続A型 エコファーム絆 中芳養工場)



みなべ町 町長の小谷芳正さんは、役場の職員として若いときから北山さんの活動を見守ってきました。(みなべ町役場にて)



NPO法人ワークネット 理事・事務局長 北山守典さん
春兆さんが俳句に詠んだ梅干しの里を訪ねました。

高級ブランド「紀州南高梅」

和歌山県日高郡みなべ町。太平洋の波が鍛えた美しい海岸線と明るい太陽と豊かな緑が広がる和歌山県日高郡みなべ町。紀州田辺藩が奨励した梅干しは、良質な梅を厳選して「紀伊田辺産」の焼印を押した樽で運ばれ、江戸の町で評判となりました。以降、明治時代を通して品質向上に取り組み、農業の戦後復興に際して行われた品種改良の中で「高田梅」を母樹とする「南高梅」がついに完成。今や「紀州南高梅ブランド」の梅干しは、みなべ町に450億円規模の経済効果を生み出すまでに成長しました。高級梅干しの代名詞としてブランドを確立しています。

農業後継の担い手が福祉に協力

田辺市にある就労継続支援A型事業所「エコファーム絆」では資源回収したバイオ燃料を冷暖房に使い椎茸栽培を行っています。主な働き手は精神に障がいのある人ですが、工場長の前田哲生さんは、農家出身。事業開始2年目で椎茸が市場で価格がつくまでの品質となり、安定経営が図れるようになりました。ここではじめて、精神に障がいのある人と出会った前田さんは、「はじめて出会った時もまったく違和感はありませんでした。北山さんから配慮することをお願いしてもらい、みなさん元気に働いていただいています。」とのこと。農業地区での働く場づくりのモデルになっています。

北山さんの後継も育つ

(社福)やおき福祉会 紀南障害者就業・生活支援センターは、全国

に先駆けて精神障がい者の就労支援を全面に打ち出して誕生。ここを拠点に北山さんは独自にのみ出した北山方式で精神障がい者を就労の場に送り出していました。一昨年、退職したときに所長の仕事を託されたのは、清水望さんです。以来、清水さんは、北山さんの経験を引き継ぎ、就労支援に取り組んできました。清水さんの報告に「そうか。」と返す北山さん。支援する人を育てることに才能をお持ちのようです。

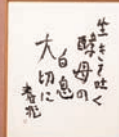
南高梅の里で働く

花田春兆さんが詠んだNPO法人・南高梅の会は、就労継続支援A型みなべ工場として、高田智史さんが代表を務める紀州高田果園の梅干し生産に関わっており、北山さんはこの所長も兼ねています。現在は、高田果園の最高級梅干し「絹梅」個包装が仕事の中心。丁寧に生産された梅干しを傷つけないように個包装し、化粧箱に綺麗に並べていきます。訪問したときは、お歳暮シーズンの準備に大忙しでした。「お給料は、たくさん欲しいです。」黙々と働く人から力強い返事に、目を細める北山さんの姿がありました。

生きて吐く酵母の

白息大切に

花田春兆



佐治リエ子さんの魅力は、屈託の無い笑顔、みんなが楽しくなります



朝6時 前日に成形したパン生地をホイロから取り出す



8時になると出勤してくる人が増えてきます。天然酵母のパン生地を作ったアンパン作りも始まっています



10時 訪問販売のための仕分け作業も始まりまし



9時を過ぎるとサンドイッチ作りも始まります。ひかり工房のピークタイムに入りました



10時30分 一刻も早く出たい。急いで自分のルートの車にパンを積み込みます

社会福祉法人さつぽろひかり福祉会 統括責任者 佐治リエ子さん
俳句に詠まれた天然酵母の息づかい。
受賞が決まった佐治リエ子さんを初冬の札幌ひかり福祉会に訪ねました。

分単位で進むパン作り

午前6時、気温零度。さつぽろひかり福祉会ではすでに2人の職員がパンを焼いています。うち一人は、利用者を卒業して、今年職員に採用されました。前日に仕込んだパンを次々にオーブンに入れて、タイマーをセットすると、休む

まもなくクッキー生地づくりに入ります。30分後には、新たにスタッフ1人が加わりますが、特に打ち合わせがあるわけでもなくオーブンの中とホイロ（パン生地の2次発酵のための機械）の中をみて状況を把握して仕事をしています。

7時30分には、パン生地づくりと1次発酵の担当者が作業を開始。9時になるとサンドイッチも含め、工場はフル回転し始めます。この施設では利用者どうしで教えあうのが大きな特徴。「そのう

ち、職員さんもみんな利用者から採用になるかも知れないです。そのときには、現在の職員もクビになつて本望だねって言いながら将来を楽しみにしているんです。」と佐治さんが説明してくれました。

10時を過ぎると一気に品揃え

60種類ものパン、サンドイッチが一気にできあがりはじめ、店舗での品出しや訪問販売の準備が慌ただしく始まります。食堂は、いつの間にか出荷場所に変身し、効率良く考えられた仕分け台に次々と訪問販売用のパンが並べられていきます。何をどれくらい売るのは、利用者が前日売上の状況に合わせて昨日のうちに決めていきます。11時の出発に向けて、つり銭準備も始まりました。

強みは、3ルートある訪問販売

小走りです。抱えてきたパンと共にパートタイマーの職員が運転する車に次々飛び乗る男達。売れないと自分どころか、施設に残って作業している仲間の給料が減ることは、痛いほどわかっています。一刻も早くお客様のところに着いて、買ってもらいたい。だから

ら、ついつい走ってしまいます。週に1回決まった曜日に学校や病院、会社を回るようにして5日間3ルート分の時間割が埋まったのは今年に入ってから。それについて、売上も毎日10万円以上に伸びています。加えて店舗売上約5万円を加え月の売り上げは、400万円ほどになりました。

午後は、自家発酵天然酵母パンの仕込み

パン工房ひかりで力を入れ始めたのが、自家発酵した天然酵母によるパン作り。現在、全体の2割が天然酵母パンになっています。天然酵母液は、大切に保管されています。ハード系のパンを中心にお客様の評判もよく、これからもっと増やしていく計画です。様々な果物で作った天然酵母で一番良かったのは、やはりレーズン、そしてお米。古くから受け継がれたパン職人の技法が一番良いとの結論がでているそうです。ゆっくり進む発酵は、午後の作業にぴったり。4時頃には全ての作業が終了し、ひかり工房は次の日の朝まで、天然酵母とともに眠りにつきます。

障がい者本人によるクロネコメール便配達特別報告会

「ありがとうと言われて、うれしかったです。」

本年から、より身近に来場者を迎えるため、ミニ報告会を全国4カ所で開催する新しい取り組みも始まりました。

現在、全国47すべての都道府県の332カ所の施設で、1260人のクロネコメイトさんがクロネコメール便の配達に従事しています。これまで施設が集中していた東北地区、大分地区、関東地区にて開催を重ねてきましたが、本年度は1カ所でも地元で開催する報告会をお届けしようという取り組みを開始。ご応募いただいた4カ所の施設が地元でのクロネコメール便配達報告会を開催しました。

神奈川県横浜市磯子区

シャロームの家／ハンディジャンプ／ エンジョイメント



10月26日、横浜市磯子区のシャロームの家、ハンディジャンプ、エンジョイメントの三つ地域活動支援センターが主催したミニ報告会を地元公民館で開催。商店街や後援会、親御さん、利用者さんなど80名の来場者のもと、メール便配達の報告を行いました。シャロームの家の内田泰志さんは5年目で、一日200冊も配達できるようになったことを報告。毎日、ありがたいとの感謝の気持ちで働いているそうです。来場者から「モットーにしていること」と聞かれ、「継続は力なり。」と回答。場内からどよめぎが起きました。

福島県南相馬市

NPOほっと悠／NPOあさがお



11月8日 福島県南相馬市でクロネコメール便配達に取り組むNPO法人ほっと悠とNPO法人あさがおが合同で特別報告会を開催。74名の来場者に向かってクロネコメイトさんが特別報告を行いました。本人の報告に加えて来場者からも「自分の子どもですが、一生懸命にやっています。みなさんよろしく願います。」と理解を求めるお話がありました。報告した後、来場者の着席したテーブルを回り、一人一人お世話になっている人にお礼の言葉をかけました。

東京都江東区

リサイクルショップ・オアシス



11月28日 東京都江東区砂町商店街周辺でクロネコメール便配達に取り組むリサイクルショップ・オアシスの特別報告会が砂町文化センターで84名の来場者を迎え開催されました。リサイクルショップ・オアシスでは一般就労に向けた訓練の一環として取り組んでいて、この日は、メール便配達したあとと実際に一般就労した人の体験発表もあった他、ビデオ映画「アメモマケズ、イヌニモマケズ」も上映されました。また、日頃親切にしていたいている方への感謝のプレゼンとも用意され、来場者にさまざまな思いを伝えることができました。

クロネコメール便配達特別報告会

IN 東北福祉大学

12月12日 宮城県仙台市にある東北福祉大学ステーションキャンパスで、200名の



参加者のもと東北福祉大学実学臨床教育推進室、仙台市障害者就労支援センター、ヤマト福祉財団の3者共催にて開催。午前の部では、東北福祉大学の学生が4箇所の福祉施設を訪問してクロネコメール便の配達状況を調査したことを発表しました。昼食には、登米市にある福祉施設「登米大地」の調理したB級グルメ売り出し中の「油麴井」が提供されたほか、ミニバザーも開催され、クロネコメール便以外にも福祉施設の就労支援の取り組みが判るようになりました。

午後の部では、仙台市障害者就労支援センターの諸橋悟氏による「障害者の就労支援」をテーマに基調講演いただき、東北各地から9施設23名のクロネコメイトさんが発表を行いました。2回目の発表となる人も成長ぶりがうかがわれた報告会となりました。



「ありがとうございました」

●学生の訪問と調査にご協力いただいた福祉施設 ▶ 社会福祉法人わらしべ舎西多賀工房(宮城県仙台市太白区) / 社会福祉法人山元町社会福祉協議会 山元町共同作業所「工房地球村」(宮城県亘理郡山元町) / 岩沼市知的障害者通所授産施設 ひまわりホーム(宮城県岩沼市) / 社会福祉法人みんなの輪わ・は・わ広瀬(宮城県仙台市青葉区)

●会場の運営にご協力いただいた施設など ▶ 東北福祉大学実学臨床教育推進室に所属する学生のみなさん / 社会福祉法人はらから福祉会登米大地(宮城県登米市)

●クロネコメール便特別報告 ▶ 共同作業所 杜の家(岩手県盛岡市) / 社会福祉法人いわて共生会あけぼの(岩手県北上市) / 手作りクッキーおからや(山形県鶴岡市) / 地域活動支援センターいるかハウス(福島県福島市) / 地域活動推進センターほっとスペース歩歩(宮城県仙台市) / NPO法人ほっと悠(福島県南相馬市) / ひまわりの家(福島県南相馬市) / NPO法人あさがお(福島県南相馬市) / 障がい福祉サービス事業所 フルクテン(福島県いわき市)

ふれあいスペース「ちえすと」



11月6日 鹿児島県の大隈半島に位置する鹿屋市の中央公民館で開催した就労継続支援B型事業所ふれあいスペース「ちえすと」は、鹿児島県東部でクロネコメール便配達に取り組み唯一の施設です。当日は、和太鼓の演奏や利用者さんの作品展示も行われ、94名の来場者がありました。また、開催にあたり南日本新聞社のコラムにも掲載され、お問い合わせもたくさんいただきました。当日は、2名のクロネコメイトさんが発表しました。発表による報告もありました。

心に響くクロネコメイトさんの取り組みにじつと耳を傾ける来場者の姿が目立ちました。

南風録

鹿屋市のNPO法人が運営する就労継続支援事業所「ちえすと」は、体や心に障害のある人の自立を支援している。20人の通所者の中に、50代のAさんがいる。Aさんは親族の経営する会社で働いていた10代のころ、指示されたことが理解できなかったり、すぐ忘れたりして立ち往生するようになっ

南日本新聞で紹介されました。 2010年11月6日

私たちの賛助会費が活かされています ■ 障がい者福祉助成金

助成先レポート

Vol. 9

地域の個性を武器に

戦略的な事業展開で工賃アップを目指す

社会福祉法人時の会
ぐりんぴーす工房
多摩うどん ぼんぼこ

学校5日制の開始にあわせ、土曜日の障がい児の受け皿として自発的に発足したぐりんぴーす工房は、働く場づくりに精力的に取り組む、「メーカーと競合できる商品づくり」をモットーに活動を広げています。

受け身から、攻めの福祉に

地域ブランドを確立し、「いずれはネット販売で工賃アップを！」と意気込んでいるのが、東京都多摩市のぐりんぴーす工房です。その戦略の一環として、昨

年4月に3名の利用者が働く「多摩うどん ぼんぼこ」をオープンさせ、うどん熟成庫の購入に当財団の助成金を活用しました。

1992年設立のぐりんぴーす工房は、クッキーの製造・販売で地域に名の知れた存在です。

一般に焼き菓子は、風味づけに粉末乾燥化された野菜や果物のパウダーを使いがちです。ぐりんぴーす工房のクッキーは、地元で収穫されたゴマやショウガなどを生のまま素材に生かして焼き上げ、それが評判を呼び、スーパやサンリオビュローランドにも卸しています。しかし自立支援法への移行にあたり、「これからの福祉は受け身では限界がある。自立には打って出なければ」との思いと、入所希望者が増える一方の状況を受けて、事業拡充を決断。うどん店に第2の事業としての白羽の矢を立てたのです。

地域の力を魅力に変えて

岡崎理事長がたまたま食べた市販の冷凍うどんの美味しさに感心したことから、多摩地方には昔から、なにかしら集まりがあると手打ちうどんを振る舞う習慣があったことが結びついて関



店内でぼんぼこのスタッフと。大久保委員長（後列右）、財団東京支部 樋口事務長（後列左）
団地の小さな商店街にたたずむ「ぼんぼこ」（写真右）



練った粉をまとめて棒状にし、熟成庫（写真右）で2回熟成させると、のどごしのよいうどんができる。一連の作業を任されている八木橋武央さん。



助成先訪問 **シリーズ4**

仕事に励む姿に、
イメージがガラッと
変わりました。



●ヤマト運輸労働組合
西東京支部執行委員長
大久保 忍さん

私自身、先月までドライバーでしたので、作業所などへもお届けに上がったりしたことはあったのですが、福祉の現場をつぶさに見るということはまったくの初めてで、今日はたいへん勉強させていただきました。

ぐりんぴーす工房さんは「福祉」という言葉に甘えず、品質の高い商品で勝負することをポリシーとされていらっしゃる、クッキー製造にせよ、うどん店にせよ、一見ただけではハンデキャップがあるとは思われない、秩序だって、みんな熱心に仕事に取り組んでいらっしゃる姿に本当に感動しました。

定例の夏のカンパだけではなく、1年間を通してなができるか？ 自分たちのような初心者はどこから手助けができるのか？ 支部内で真剣に考えてみたいと思いました。



うどんのブランドイメージは〈懐かしの多摩〉。対してクッキーは「多摩の杜」とあらためて名付け、〈現代の多摩〉を前面に立てたブランディングを今後は展開していく予定。



一番人気は「ぽんぽこうどん」(500円)。舞茸入りのオリジナル天かすに四つの出汁をブレンドしたつゆで、工夫をこらしました

いたのが、うどん事業でした。

クッキー製造の経験から差別化を図るために、多摩市の農業委員会とも連携を取って、麦を育ててもらえるようお願いし、地粉を10%配合するようにしました。小麦の生産量が増えれば、配合率は上げていく予定です。

地場の産業と手を組むことで、受け身の福祉から地域に役立て

店舗運営はあくまで助走

「開店当初にくらべ、来店者数も安定してきました。飲食店の運営は初めてだったので、梅雨時には客足が落ちてヒヤヒヤしました」と語ってくださったのは、足利英一郎店長です。その前は飲食業とも福祉ともまったく無縁のＩＴ業界から飛び込ん



メンバー3人、職員3人で店を切り盛りしています



できましたが、開業前には讃岐うどん店へ修行にも出かけまし

店舗運営も安定してきたので、まもなく生麺の近隣への外販を。

た。いずれはネット販売
事業に培ったノウハウ
を生かすことも期待さ
れています。

価格はいずれもワンコインで手が届く安価に設定しました。地元の高齢者に足を運んでもらいたいからです。そのため売上はまだまだですが、「利用者さんが突然、『ここで働いていることがうれしい』と僕に言ってきた、些細なことですけど、僕には一番うれしかったですね」と店長は、手応えを感じている様子です。



ぐりーんぴーす工房
秋田幸子施設長



多摩うどん「ぽんぽこ」の
足利英一郎店長

つぎに冷凍麺の製造にも乗りだし、ネット通販で販路を大きく広げたいと考えています。工賃も近々3万円ぐらいにし、3年のうちには5万円にするのが当面の目標です。戦略的に次々と手を打って前進するぐりんぴーす工房から、しばらく目が離せません。

この街で、
一緒に生きていく。



(財)ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコメール便配達事業

「配達の初日に飲んだ、 ジュースのおいしさが、忘れられない。」

横浜市磯子区にあるNPO法人さざなみ会「シャロームの家」は、2006年6月にメール便配達を開始しました。すでに4年も、この事業を継続。一日千冊を超えることもあるメール便を、今は6人のメイトさんが分担して配達しています。丘陵地という難しい土地で、構成メンバーを替えながらも、メール便配達を継続しているこの作業所を訪ねました。

「ダメならやめればいいんだから、と気軽にやり始めたんです」と、シャロームの家の小堀真吾施設長は笑います。しかし始めてみれば、シヤロ

ームの家のメール便事業は4年以上も続くことに。今も、やりたいという人がたくさんいるそうです。

しかし、小堀施設長は仕事を始

める人には厳しく話をしているそうです。「シャロームの人間として街に出るのだから、責任を持って欲しい。ただやりたいだけじゃダメ、覚

悟が必要ですよ」と言っています。自分の希望だけで始めて、体調を崩す人がいたそうです。配達で無理をすると、精神的に負担を感じるようになるのだとか。体調にはつねに気を配っているそうです。

「収入のただでやっていると、キツくなります。メール便配達に、楽しさや充実感を見いだせないと続きません。

日曜日の夜にイヤになるようだと、体調を崩してしまふんです」。そのため、シャロームの家では、お菓子作りから始めて、草刈りの仕事と、ステップを踏んでからメイトさんになるしくみをつくっています。カラダと心の準備をしっかり図っているのです。

そうして今、メイトさんは6人。その中には、少しお休みをとってからまた始めた人や、様子をみながらゆっくり続けて



仕事では厳しく指導しながらも、みんなから兄のように慕われている小堀真吾施設長。冊子が多いときは、自ら走って配達を手伝います。つねに彼らと寄り添って、仕事面でも精神面でも、彼らの支えとなっています。

いる人もいます。しかし、みなさんがこの仕事に充実感を持っていると言います。

●横浜主管支店 横浜杉田センター

面積4.8Km²/人口63,873人/世帯数20,855世帯

●特定非営利活動法人さざなみ会 地域活動支援センター「シャロームの家」

約40名が所属(精神障がいなど)。
菓子製造・販売、清掃業、草刈りなど。
2006年6月メール便配達開始。現在メイトさんは6名。

「障がい者のクロネコメール便配達事業」

お問い合わせは……(財)ヤマト福祉財団 メール便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

<http://www.yamato-fukushi.jp/>



内田泰志さん

スタート時からのメンバーで、チームのリーダー的な存在です。「最初は大変でしたが、3ヶ月ぐらいで地図を見なくてもできるようになりました」。太っていたそうですが、いつの間にか健康的にやせたそうです。

みんなから頼られる存在。 内田泰志さん。

「最初は幼い感じで、手をつながないと歩けなかった人が今は一人でさつさと配達に出ます。頼もしくなりました」(小堀施設長)メール便配達の報告会では、メンバーが大勢の人々の前でしっかりと発表をして、小堀施設長をビックリさせたそうです。

「シャロームの家」小川好仁運営委員長も、彼らと一緒に街をまわって、心配が安心に変わったそうです。「街の人たちと親しくなってます。挨拶してもらっている。よくやっています」

今日の配達を終えた4人のメイトさんにお話を伺いました。

始めて3年。取材の翌日が、28歳のお誕生日だそうです。「季節を感じるのが好きなので、外を歩くのが楽しい」。以前は引つ込み思案だったのに、先日の報告会ではみんなの前で発表。お母さんに「ベタ褒め」されたそうです。「両親を食事に連れて行ってあげたい」と話す彼女。小さいのによく頑張ってるねと、街で声をかけられます。



飯島望さん

ユニホームを着るとウキウキ。 飯島望さん。

「仕事をしながら運動もできて、ありがたいです。やっていると力がわいてきます」。なんと、百歳まで続けたい、と話してくれました。

一度体調を崩してお休みをしていましたが、再挑戦7ヶ月目。「最初は、自分で自分を追い詰めていました」と話す彼女。しかし、みんなとチームワークをとるようになって

この仕事が好きだから、再挑戦。 寺崎小百合さん。

小堀施設長から勧められて始めました。もう2年目。「続けているうちに、体調が劇的によくなり、自分でも驚きました。勧めてくれた小堀施設長に感謝しています」。メール便をてきぱきとこなすスピードは、ぴかいち。「自信がついて、挑戦しようという前向きな気持ちになりました」。夢は、一般就労だそうです。



滝沢賢広さん

体調が劇的によくなった、 滝沢賢広さん。

ラクになったそうです。家族からは、そんなにがんばらなくていいよって言われるとか。

メール便配達が好きだから、大変だけど続けたいと言う彼女。初めてメール便を配達した日は、へとへとに疲れたそうです。でも、そのときに飲んだジュースのおいしさが忘れられないと笑います。

仕事に対する熱意が違う。

彼らの仕事のレベルの高さに驚いたと言うのは、ヤマト運輸 横浜主管支店メール便営業課の山田丈二課長。「仕事に対する熱意がちがいます。みなさん、ほんとイキイキと働いている」。また、転居などの地域情報を内部で更新してもらえると、助かっているとも話します。

同じくヤマト運輸 横浜主管支店金沢支店 馬渡真吾支店長は、「同じ失敗がありません。間違いを



寺崎小百合さん

「メール便を知って、息子の将来が広がったように思えたんです。障がいがあっても頑張れる。たくさんのお母さんに知って欲しい」彼女と同じ想いを、一人でも多くの人に感じてもらえたらと思います。

困難に立ち向かいながらも、この仕事に喜びを感じると話す彼ら。その中の一人、メイトさんの寺崎さんは、メール便配達と出会う、助けられたと話します。彼女には障がいのある息子さんがいます。

「メール便を知って、息子の将来が広がったように思えたんです。障がいがあっても頑張れる。たくさんのお母さんに知って欲しい」彼女と同じ想いを、一人でも多くの人に感じてもらえたらと思います。



左から/ヤマト運輸 横浜主管支店メール便営業課 山田丈二課長、横浜主管支店金沢支店 馬渡真吾支店長、飯島望さん、小堀真吾施設長、滝沢賢広さん、寺崎小百合さん、内田泰志さん、立花洋悦さん、ヤマト福祉財団 関東支部 東関東地区担当 平井忠事務長

「会社に来るのが楽しい」 自信が仕事への責任感に 変わってきました。



学生の頃からトライアルを続け、希望の三菱マテリアル株式会社に就労した押谷聡さんを訪ねました。

左から CSR 雇用推進室室長補佐・池田浩昭さん、押谷 聡さん、就労指導員・矢部豊彦さん、同・稲葉浩士さん

■ヤマト自立センター スワン工舎新座 就労に必要な知識や技術の習得から就労先とのマッチング、さらに就労後の定着までを一貫して行い、障がいのある方が地域で自立するための支援を行います(就労実績:47名)。

■三菱マテリアル(株) 人材開発センター 200社を超えるグループ会社を擁する三菱マテリアル(株)は、セメント、銅、金属加工、電子材料の四つの事業を核とし、さまざまな事業を展開しています。雇用率2.46%(2010年9月現在)。



押谷 聡さん/(2009年3月1日入社/三菱マテリアル株式会社)
「芝生を刈る仕事が一番楽しい!」と話す押谷さん。



「トイレットペーパーの三角折りがなかなかうまくいかず、折り紙などで練習を重ねました」とマンツーマンで指導にあたる稲葉浩士さん。押谷さんはいまでも仕事が終わった後に、毎日練習を続ける努力家です。



より長く就労できることが、
自立の道につながっていく

さいたま市にある三菱マテリアル株式会社が、押谷さんの職場です。特別支援学校在籍中から何度か実習に参加していましたが、当時の主な業務は車が行き交う敷地外周の清掃作業で、押谷さんには難しい状況でした。それでもぜひここで働きたいという押谷さんの熱意はもろろん、障がい者雇用をさらに進めるという三菱マテリアル株式会社の方針により、障がいのある方も安心・安全に働ける職域が広がり、指導員も7名に増員されました。そして昨年春、押谷さんの就職がようやく実現しました。しかし最初からすべてが順調だった訳ではありません。押谷さんは空間認知が苦手、どこまで清掃したのかわからなくなる時があります。また、頑張り過ぎてストレスが溜り体調を崩すこともありました。それでも休まずに会社に通う姿に、なんとか押谷さんに合った指導法を考えようと、スワン工舎のジョブコーチと連携し、仕事を分解して教えていくなど、いろいろと試行錯誤されたといえます。その成果が実り、押谷さんは一つずつ仕事を覚え、いまでは自信もついて入社当時から随分と顔つきも変わってきました。仕

事への責任感も生まれています。「大切なのは、こちらが結果を性急に求めないことです。会社に来るのが楽しい」と言ってくれた時は本当にうれしかったですよ」と就労指導員でありジョブコーチの矢部さんが話してくれました。社内事業とはいえ仕事である限り、コストも質も他に負けないものにしていくことが必要です。「そのうえで長く就労できる、定着できる環境づくりを進めることで、自立への道も拓けていくと思います」と室長補佐の長谷川さん。押谷さんが所属する人材開発センターは、全社で障がい者雇用を推進するためのモデル事業所に位置づけられています。将来的には特例子会社化も視野に入れ、クッキーやパンづくりなどの仕事も実現したいと、意気込みをお話くださいました。

人材開発センター
CSR雇用推進室・
就労指導員
矢部豊彦さん



人材開発センター
CSR雇用推進室・
室長補佐
長谷川直樹さん

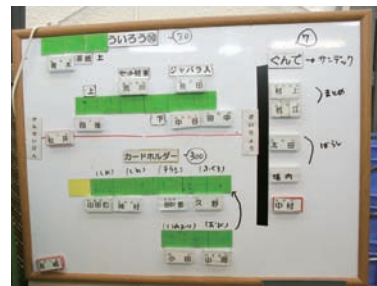
新しい視点で利用者の力を伸ばせ 働く力革新塾 持ち回り研修会始まる

働く力革新塾の持ち回り研修会が、12月2日名古屋市南区にあるワークセンターフレンズ星崎で開催されました。9月の合宿で学んだことを取り入れた作業の様子を見学、



午後からは取り組み発表と質疑応答を行いました。ワークセンターフレンズ星崎では営業活動を実施。一番効果があったのは、障がい者のこと

の理解してもらうためのプレゼンテーションだそうです。また、ライン方式の実践報告も行われ、持ち場を理解してもらうための手提げホワイトボードの活用方法が新しい工夫として発表されました。菅野先生からは、ライン方式の完成後には生活介護の人たちの技能・態度をどのように身につけ、就労継続グループにステップアップさせることができるのか是非挑戦してほしいとスタッフを激励。刺激の多い一日となりました。次の研修会は、1月長崎・2月千葉において開催する予定です。



出した指示を忘れることを防ぐのに効果を発揮した手提げホワイトボード



職員全員参加で働く力革新塾の方向性を改めて確認

3月度売上目標に向かって 第1回障がい者の暮らし変革塾 開催

12月16～17日の2日間にかけて宮城県蔵王の麓、はらから福祉会にて14施設が参加して第1回障がい者の暮らし変革塾を開催しました。リーダー武田元さん、サブリーダー中崎ひとみさんの指導のもと、はらから福祉会の施設見学と参加施設の現状報告のほか、各施設の生産販売している商品のプレゼンテーションも行いました。会議の結果、3月度の目標を達成するための準備を各施設が行い、他の13施設の商品の販売にも挑戦することになりました。次回は2月25日に東京で開催し、準備状況を確認。これらの結果をもとに次年度は目標工賃5万円に向けた商品の改良や開発を行います。

スワンのX' マスケーキ販売 ご協力ありがとうございました

2010年12月のスワンのクリスマスケーキは昨年より約9,000個多い92,776個を販売することができました。全国のヤマト運輸、ヤマトグループ各社みなさまのご協力ありがとうございました。スワンでは、今後も障がい者の雇用に向けたさまざまな活動の幅を広げていきます。

日本障害者文化史絵巻 DVD 【あびす曼荼羅】好評販売中!

日本の創成期から宇宙にロケットが飛ぶ現代までを、障がい者を核とした文化芸術の視点から描いた「日本障害者文化史絵巻」が、【あびす曼荼羅】です。花田春兆さんの著書「日本の障害者・今は昔」をもとに絵を描き、詩と曲をつけた一大交響詩になりました。

日本神話では、最初のカップル・イザナギとイザナミの最初に生まれた子は、ヒルコとよばれる障がい児であったところから国産みの物語は始まります。

漢字かな混じりの日本語の基礎を確立し、さらにその原典『平家物語』を国民文学に押し上げたのは、全国を語り歩いた盲人の琵琶法師たちであったことなどを、絵巻というアンティークな形でまとめました。北斎漫画、山下清、正岡子規なども登場します。

お問い合わせ▶

〒162-0052 新宿区戸山1-22-1

日本障害者リハビリテーション協会内

日本障害者協議会(JD)

電話 03-5287-2346 FAX 03-5287-2347

メール office@jdnet.gr.jp

DVD【あびす曼荼羅】5,000円



リーダー武田元さんも自らの利用者300名に7万円を支給する目標があります



“百聞は一見にしかず” 現場職員の実践を見学



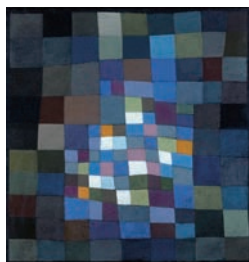
施設で作った商品をプレゼンテーション

パウル・クレー展 終わらないアトリエ

PAUL KLEE:
Art in the Making
1883-1940



《花ひらいて》1934, 199
油彩・カンバス、
81.5×80.0cm／
ヴインタートゥーア美術館



「ベルンのアトリエでのパウル・クレー」1939年
撮影：フェリックス・クレー／
パウル・クレー・センター（ベルン）

開催期間 ▶ 2011年3月12日（土）～5月15日（日）
休館日 ▶ 月曜（※3月21日〔月・祝〕と5月2日〔月〕は開館、3月22日〔火〕は休館
開催場所 ▶ 京都国立近代美術館

●JR～バス利用

JR・近鉄京都駅前（A1のりば）から 市バス5番 岩倉行「京都美術館美術館前」下車
JR・近鉄京都駅前（D1のりば）から
市バス100番（急行）銀閣寺行「京都美術館美術館前」下車

●阪急電鉄・京阪電鉄～バス利用

阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から 市バス5番 岩倉行「京都美術館美術館前」下車
阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から
市バス46番 平安神宮行「京都美術館美術館前」下車

●地下鉄利用

地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

開館時間 ▶ 9:30～17:00（金曜は20:00まで）※入館は閉館の30分前まで

入館料 ▶

	一般	大学生	高校生	中学生以下
当日	1,500円	1,100円	700円	無料

○障害者手帳をお持ちの方および付添人1名様は無料。
（入館の際に証明できるものをご提示ください）

問い合わせ先 ▶

京都国立近代美術館 075-761-4111

展覧会公式HP <http://klee.exhn.jp/>

主催 ▶ 京都国立近代美術館、日本経済新聞社、京都新聞社

後援 ▶ スイス大使館

協力 ▶ パウル・クレー・センター、スイス インターナショナル エア ラインズ、
日本航空、スイス政府観光局

巡回情報

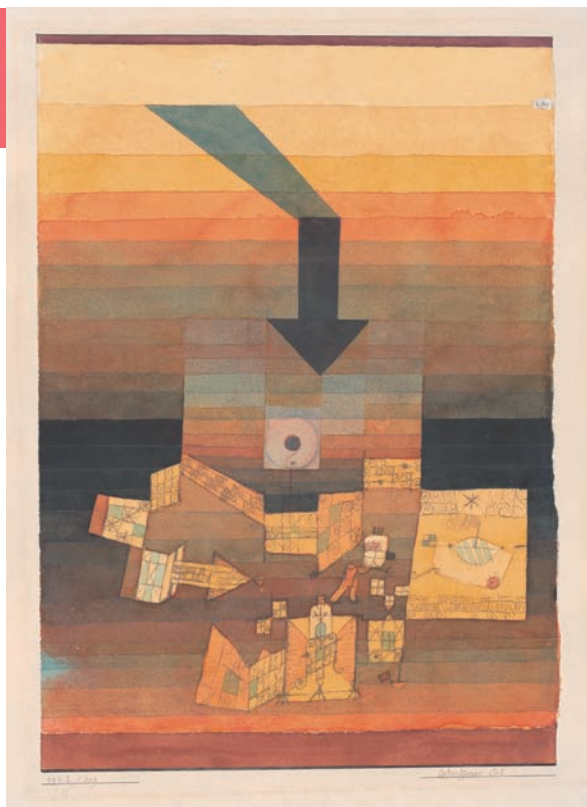
2011年5月31日（火）～7月31日（日）
東京国立近代美術館



「アートが生まれる瞬間」を
解き明かす

制作の一方でクレーは1911年から終生、作品リストをつけ、そこには詳細な制作方法も記しました。クレーにとっては「どのように作ったか」も重大な関心事だったのです。本展覧会は、日本初公開の作品を、数多く含む約170点で構成され、制作技法を検証する六つの章によって、クレー芸術の創造過程を明らかにする野心的な試みです。本展の美術品取り扱い扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

多彩で詩情あふれるクレーの世界
繊細で豊かな感性を醸し出すパウ
ル・クレーの作品はいつも日本人の
こころを惹きつけてきました。クレ
ーは1879年、スイスのベルン郊
外の音楽一家に生まれ、その後パリ
とならぶ芸術の都ミュンヘンに出て
カンディンスキー、マルクラとともに
芸術グループ「青騎士」に参加。
1920年代にはバウハウスで教鞭
をとり、独自の造形理論を深めまし
た。クレーは画家のみならず、哲学
家、音楽家としても活動し、その膨
大な作品群において、多彩な作風・
技法を駆使しています。



《襲われた場所》1922, 109
ペン・鉛筆・水彩・紙・厚紙、30.7×23.1cm
／パウル・クレー・センター（ベルン）



《バルトロ：復讐だ、おお！》1921,5
油彩転写・水彩・紙・厚紙、
24.4×31.2cm／個人蔵（ベルン）

ヤマト福祉財団全国支部連絡先（ヤマト運輸（株）内）

支 部	事務長	連絡先
北海道支部	加藤 房 男	TEL.011-891-5040
東北支部	小原 守	TEL.022-374-8065
東京支部	樋口 光 徳	TEL.03-5564-3705
関東支部	塚本 良 輔	TEL.045-508-6106
関東支部東地区	平井 忠	TEL.043-259-7364
北信越支部	南雲 真 一	TEL.025-231-9512
中部支部	矢野 静 香	TEL.052-725-3633
関西支部	石田 久 雄	TEL.06-6682-8570
中国支部	竹下 憲 雄	TEL.082-849-1451
四国支部	久龍 猛 志	TEL.0877-46-7875
九州支部	目野 和 彦	TEL.092-931-3310
沖縄支部	古謝 盛 裕	TEL.098-840-3605

賛助会員個人51,372人 ヤマトグループ法人会員（2010年3月31日現在）

本誌の無断転載・転用を禁じます。©（財）ヤマト福祉財団

アメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

